

## 総務省からの お知らせ

**保護者の皆様へ** お子様が無事安全にスマートフォンを利用するために満18歳未満のお子様スマートフォン等インターネット接続機器を利用させる場合、保護者の方は次の点に十分注意してください。

### 1 適切にインターネットを利用する

SNSを利用して子供たちを言葉巧みに誘い出し、事件やトラブルに巻き込まれる深刻な事案が発生しています。インターネットに関する知識、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけ、正しく利用することが重要です。

### 2 家庭のルールを作る

長時間利用によるネットの依存症も増加しています。適切な生活習慣が身につけられるように、お子様と一緒に話し合い、それぞれのご家庭のルールを作りましょう。「利用時間は夜9時まで」など、ルールは具体的に決めることがポイントです。

### 3 フィルタリングなどを設定する

「フィルタリング」は、知識が十分でないお子様が、不用意に違法・有害サイトにアクセスしないよう制限する機能です。子供たちが事件・事故に巻き込まれないようにスマートフォン等には必ず「フィルタリング」を設定してください。

○実際に起きたトラブル事例をもとに、予防法と対策法をまとめた「インターネットトラブル事例集(2023年度版)」や、相談窓口のご案内を総務省ホームページに掲載していますのでご活用ください。

#### ■インターネットトラブル事例集(2023年度版)

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000872813.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000872813.pdf)

総務省インターネットトラブル事例集

■インターネット上の誹謗中傷に関する相談窓口のご案内  
[https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/trouble/reference/img/reference.pdf](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/reference/img/reference.pdf)

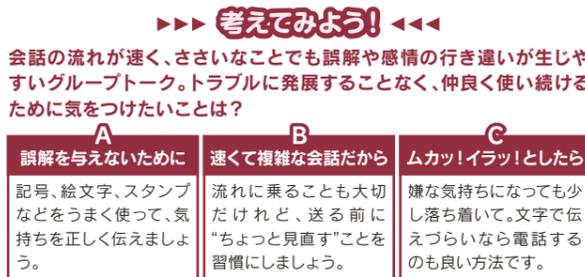
総務省インターネット上の誹謗中傷への対策



【本件に関するお問い合わせ先】  
総務省 北海道総合通信局 情報通信部  
電気通信事業課  
☎ 011-709-2311  
(内線:4704)

## 文字だけのコミュニケーションは意外と難しい!?

出典:インターネットトラブル事例集(2023年度版)



### ▶▶▶ 考えてみよう! ◀◀◀

会話の流れが速く、ささいなことでも誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。トラブルに発展することなく、仲良く使い続けるために気をつけたいことは?

- A** 誤解を与えないために  
記号、絵文字、スタンプなどをうまく使って、気持ちを正しく伝えましょう。
- B** 速くて複雑な会話だから  
流れに乗ることも大切だけど、送る前に“ちょっと見直す”ことを習慣にしましょう。
- C** ムカッ! イラッ! としたら  
嫌な気持ちになっても少し落ち着いて。文字で伝えづらいなら電話するのも良い方法です。

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課  
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館3階  
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943



札幌市公式HP:「子どもの権利」のページ

<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>



Eメール

[kodomo.kenri@city.sapporo.jp](mailto:kodomo.kenri@city.sapporo.jp)



令和6年(2024年)3月発行



子どもがきらりと輝くまちに

# 子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child ニュース

第30号  
令和6年3月発行

子どもにとって大切な権利  
・安心して生きる  
・自分らしく生きる  
・豊かに育つ  
・参加する

## 「こどもまんなか アクション」

### リレーシンポジウム in 北海道

このシンポジウムは、「こどもまんなか社会の実現のために～親も子ども共育ち」をテーマとし、こどもや子育てに関わる全ての人々が、共に育ちあう地域を創出し、こどもや子育て世代を社会全体で支える気運の醸成を図ることを目的として、札幌市と北海道が共同で開催いたしました。

当日は雪の降る悪天候でしたが、対面とオンライン形式により、子育て当事者の方、自治体・保育所、認定子ども園等の関係機関の方々など、約200名にご参加いただきました。



▲ 秋元克広札幌市長より開催の挨拶



▲ 札幌市の「こどもまんなか」な取組をパネルで紹介

令和6年1月22日(月)、こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin北海道が札幌エルプラザで開催されました。

鈴木直道北海道知事と秋元克広札幌市長による開会挨拶、玉川大学教育学部教授 大豆生田 啓友氏による基調講演、「こどもまんなかアクション」の取組事例紹介と意見交換が行われるなど、盛大に開催されたリレーシンポジウムをレポートします!

### ★「北海道妊婦・子育て世帯優先マーク」の愛称“こもりん”発表

北海道が作成した、妊娠中の方やこども連れの方に対する様々な優先サービスを積極的に提供することを示すシンボルマークの愛称“こもりん”が発表され、考案者である西嶋 一晴(にしじま いっせい)さん(8歳)が表彰されました。

北海道妊婦・子育て世帯優先マーク「こもりん」



### ★基調講演「こどもまんなか社会の実現のために～親も子ども共育ち」

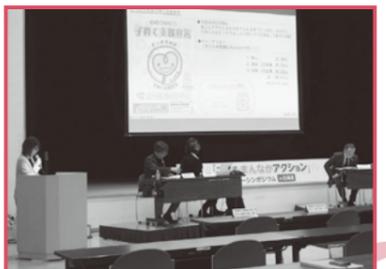
NHK、Eテレ「すくすく子育て」に出演されており、子育て本を中心に多数の著書を執筆されている、玉川大学教育学部教授 大豆生田 啓友氏による基調講演では、ご自身の子育てエピソードを交え、こどもだけでなく、保護者や養育者を支える大切さについて、心温まるお話をいただきました。



### ★トークセッション

札幌市や東神楽町など、道内の自治体や団体5組が、親も子ども地域で孤立させないための取組事例を紹介。

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授の川田学氏の進行により、コメンテーターに大豆生田啓友氏、パネリストにこども家庭庁成育局成育環境課長 山口 正行氏を迎え、活発な意見交換が行われました。



▲ 札幌市における子育て支援の取組事例を発表

# さっぽろのまちづくりに 子どもの声を届けよう!

テーマ

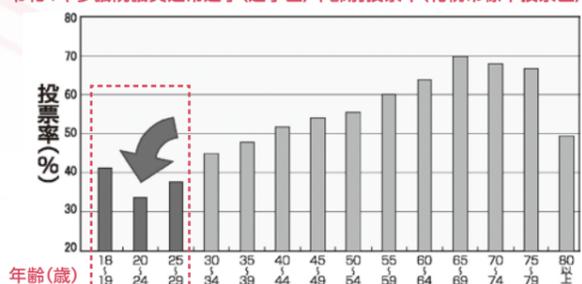


今回は、私たちの生活や社会をよくするために重要な「選挙」について、令和5年10月～12月に市内の子どもたちから意見を募集したところ、合計274通の提案や意見が届きました。この意見の提出にあたって、子どもたちが選挙を未来の自分に関わることとして捉え、選挙について調べた上で、より良い方法を考えたことが伝わる意見がたくさんありました。みなさんから届いた意見や提案の一部をご紹介します!

## ① どうしたら、若い人たちが選挙に行こう!と思うようになるだろう?

最近の選挙では、ほかの年代にくらべて、10代、20代の若い人たちの投票率は低くなっていることから、若い人たちに、「もっと政治に関心をもってもらい、自分のまちの未来について考え、選挙に行こう!」と思うようになってもらうために、子どもたちの考えを募集しました。一番多かったのは、「選挙の大切さを分かりやすく呼びかける」で、選挙が自分の未来に関わるものだと思えるよう伝えることで、若者も選挙に行くのではという意見が多くありました。そしてその広報方法としては、やはり若者に身近なInstagramやTikTokなどのSNSを活用した方とよいという意見が多く、加えて動画などに留まりやすく面白いものがよいといった考えもありました。また、投票方法に関する意見では、ネット投票48件、投票所を増やす38件、投票に行く時間の確保43件と合計で129件あり、投票方法を拡大し、気軽に投票できる環境を整備することが投票率の向上につながるという意見

令和4年参議院議員通常選挙(選挙区)年齢別投票率(札幌市標準投票区)



見が多くありました。その他、選挙は面白くない、難しいといったイメージがあるので、会場をお祭りのようにする、アーティストによる選挙ライブを開くといった、選挙+楽しめるものを組み合わせると若い人たちも行きたくなるといった、子どもの視点だからこそこの意見もありました。全体を通して、いかにして若い人たちに興味を持ってもらうかという点に着目した意見が多く、たくさんアイデアをいただき、本当にありがとうございました。

### みんなの意見の一部を紹介!

二次元コードを活用して読み取ったら、その議員の考え方が出てくる、まとめサイトがあると投票しやすくなると思う。

選挙をもっと簡単に、わかりやすく、すぐ行えるものにすればいいと思います。今でも投票を行うこと自体は簡単だけど、自分の考えに合った政党を探したり、しくみを調べたりするときに、文字だけがずらっとならんでいると読みたくなくなるので、小中学生に向けてプリントを作るみたいになればいいと思います。

選挙にいったことを自慢できるようにする。選挙を流行らせる!

政治系アイドルなど、若者が興味をもつようなものをつくる。

投票しないことによるデメリットを、テレビのコマーシャルやSNSなどで、わかりやすく具体的に広める。

各地でアーティストたちの選挙ライブを開いて、盛り上がりながらみんなで投票する!

#選挙行ったよ に有名人から「いいね」がもらえる!

「選挙は難しいもの」、「堅苦しいもの」というイメージがあるが、実際に投票に行きたくないと人は少ないので、選挙は各々が思っているほど難しいものではないことを知らせ、どのような手順で行くのか事前にわかるようにすれば、自分にもできるかもと思え、投票に行く人が多くなると思う。

「自分のように政治のことがわからないものは投票しない方がいいと思ったから。」という理由で投票しない人が結構いるから、若い人がよく使っているアプリに有名なインフルエンサーを使って選挙紹介動画を作ってアップしたら、少しは興味を持って行こうと思ってくれるんじゃないかなと思いました。

札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を生かす取組を進めています。

子どもからの提案・意見募集ハガキは、子どもたちから市政やまちづくりについて提案や意見を広く返信ハガキにより募集する取組です。

## ② 子どもたちに選挙の大切さを知ってもらうためにできることってなんだろう?

札幌市では、小中学生を対象にした「せんきょ体験授業」や選挙啓発作品展など、子どもたちに選挙の大切さを伝えるための取組を行っています。未来の有権者である子どもたちに選挙の大切さをもっと知ってもらうため、まだできることがあるはずと考え、子どもたちからのアイデアを募集しました!やはり多かったのは、選挙の授業や勉強会を開催するという意見。先生だけでなく、政治家や有名人などに教えに来てもらうと興味を持ってもらいやすいのでは、という意見もありました。次に多かったのは、模擬選挙や選挙体験で、子どもたちに身近な給食のメニューやキャラクター投票などで、開票までを行い、自分の意見が届くことを知ってもらうという意見がありました。

また、伝える手法として、ポスターやチラシのほか、アニメや漫画で伝える、人気キャラクターとコラボするなど、子どもたちが興味を持ちやすい方法がよいというアイデアもたくさんありました。その他、選挙がない場合の社会情勢を伝える、投票が多い場合と少ない場合のシミュレーションを行うなどの具体的な例を伝えるといった提案や、投票率の高い海外では子どもの意見表明機会が多いという特徴をあげ、「もっと子どもの意見を反映させるような機会を増やすとよいと思う」という意見もあり、この取組の趣旨である、子どもの参加や意見表明の機会の充実が社会全体にも大切であることとともに、その機会の必要性の高さを再認識させてもらった意見もありました。

**みんなの意見の一部を紹介**

大切さを知るためには、実践してみるのが楽しみながらできるのが良いと思う。

子どもたちに、自分の意見を言うことは大切だと伝え続けられれば、選挙の大切さにも気づくのでは。

選挙権が与えられるまでの歴史を伝えたらよいと思う。

「自分たちの未来は自分で決める」ということを分かってもらおう。

選挙のようなことをする行事を作って、それを実際に反映させて、こんなことができる!すごい!と興味を持ってもらう。

動画でもし日本が選挙制度ではなかったらというCG動画を見せて、子どもたちに選挙の大切さを実感してもらおう。

選挙の大切さより、選挙で決める代表の大切さを知ってもらうことが大事だと思う。代表がだれになるかによって、私たちの生活が大きく変わるので、ルールが多い選挙について教えるのではなく、代表について教えることがいいと考えました。

## ★札幌市の考え方(札幌市選挙管理委員会)

私たちの生活や社会をよくするための代表者を決めるのが「選挙」で、投票は私たちが政治に参加するための大事な権利です。しかし、近年、若い人たちの投票率が低いことや少子高齢化などから、若い人たちの声が政治に届きづらくなっています。若い人たちがより積極的に投票に行き、政治に参加してもらえよう、将来、有権者となるみなさんにご意見をいただきました。さまざまな意見をいただいたことに感謝します。テーマ1については、「選挙の大切さをわかりやすく呼びかける」、「SNSを使った広報を行う」といった意見が多かったほか、「インターネット投票ができるようにする」や「候補者の考えをQRコードからまとめて見られるようにする」といった情報技術の活用についての意見も寄せいただきました。

また、テーマ2については、「授業や勉強会の開催する」、「模擬選挙などの選挙体験をしてもらう」という意見のほか、「アニメや漫画を作るなど選挙の大切さをわかりやすく伝える」といった意見もありました。今後、みなさんからいただいたご意見を参考に、若い人たちが「選挙に行こう!」と思ってもらえるような取組を考えていきたいと思えます。最後に、18歳未満のみなさんはまだ投票ができませんが、私たちの未来は一人ひとりが投じる1票1票によって決まるということを心に留めていただき、18歳になって投票ができるようになったら、忘れずに、投票してください。

